

展示室 1 ヴィクトリア朝の美術



バーン=ジョーンズ《フローラ》

19 世紀後半のヴィクトリア朝のイギリス美術には、全盛期を迎えた近代イギリスの社会状況が色濃く反映されています。世界的な繁栄の陰で、イギリス国内では都市部を中心に公害や貧困などの社会問題が生じ、人々の間にある種の閉塞感が蔓延していました。

そうした中で当時の美術家たちは、ギリシャ・ローマなどの古典芸術や文学作品、東洋世界などに憧憬と関心を高め、創作の源泉としました。彼らは現実と夢を紡ぐ豊かな想像力を発揮する一方で、装飾性や審美性に特化した表現を追求しています。それは物質社会への内なる警鐘であるのと同時に、20 世紀に花開く前衛的な造形表現の胎動でもありました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
<b>●ヴィクトリア朝の美術</b>			
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコポ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル・紙
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914 頃	油彩・キャンバス
アルバート・グッドウィン	エンゲルベルク		ペン、水彩・紙 佐藤克也氏寄贈
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』より 「霧の中の愛」「ヴィナスの鏡」「天の梯子」「目覚めて、愛しい人よ」	1905 刊	リトグラフ・紙/ポートフォリオ
オーブリー・ビアズリー	おまえの口に口づけしたよ、ヨカナン (オスカー・ワイルド『サロメ』挿絵 ブルー版)	1893	ライン・ブロック・紙 『ステューディオ』創刊号
オーブリー・ビアズリー	『イエロー・ブック』第 5 巻表紙デザイン ブルー版	1895	ライン・ブロック・紙
オーブリー・ビアズリー	T. マロリー『アーサー王の死』	1893-94	ライン・ブロック・紙/本
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ (画)	J.O ハリウェル編『ウェールズのパーシヴァル脚』	1895	木口木版・紙/本
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	早朝	1878	リトチント・紙
<b>●イギリス近代美術</b>			
ポール・サンドビー	ウォーリック城シーザー塔	1778-82	水彩、ペン、インク・紙
ピーター・デ・ヴィント	ウィットビー		水彩・紙
ジョン・コンスタブル	テダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60 頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ウィリアム・ブレイク	眠るダンカン王に近づくマクベス夫人		水彩、インク・紙

展示室 2 日本近代美術 [特集：原 撫松]



原撫松《婦人像》

原撫松（はらぶしょう、本名は熊太郎：1866 - 1912）は岡山藩士の長男として現在の岡山市に生まれました。画家を志し京都府画学校に入学、卒業後も絵画研究を続け、上京後は伊藤博文など各界名士の肖像画をてがけて名声を築きました。38 歳の時にイギリスに渡り、ナショナル・ギャラリー等でレンブラントをはじめとする巨匠たちの作品模写に励み、伝統的な油彩技法を身につけます。3 年後に帰国しますが、その直後から体調を崩し、病氣療養の甲斐もなく 46 歳でその生涯を閉じました。

今回は、明治期に本格的な油彩技法を修得した知られざる画家、原撫松の作品を紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
原撫松	みかん	1892 (明治 25)	水彩・紙	
原撫松	蝸牛とトンボ	1893 (明治 26)	水彩・紙	
原撫松	菊	1892-4 (明治 25-27)	水彩、鉛筆・紙	
原撫松	横山孫一郎像	1899 (明治 32)	油彩・キャンパス	
原撫松	横山勇子像	1899 (明治 32)	油彩・キャンパス	
原撫松	地中海風景	1904 (明治 37)	水彩、鉛筆・紙	
原撫松	ヌード	1906 (明治 39)	水彩、パステル・紙	
原撫松	霧の広場	1906 (明治 39)	油彩・キャンパス	
原撫松	牧野義雄像	1904-7 (明治 37-40)	水彩・紙	
原撫松	牧野義雄像	1904-7 (明治 37-40)	鉛筆・紙	
原撫松	アルパートメモリアル	1906-7 (明治 39-40)	水彩・紙	
原撫松	ハンプトンコート	1906-7 (明治 39-40)	鉛筆・紙	
原撫松	婦人像	1906-7 (明治 39-40)	水彩・紙	
原撫松	婦人像	1906-7 (明治 39-40) 頃	油彩・キャンパス	
原撫松	日本髪的女性肖像	1910 (明治 43) 頃	油彩・キャンパス	
原撫松	奈良の夕	1911 (明治 44)	油彩・キャンパス	
原撫松	日本髪の若い女性像		油彩・キャンパス	
原撫松	日本髪の若い女性像		水彩・紙	
原撫松	自画像		水彩・紙	
原撫松	鯉を見る少女		水彩・紙	原優子氏寄贈
原撫松	包丁		水彩・紙	原優子氏寄贈
原撫松	桔梗		水彩、鉛筆・紙	原優子氏寄贈
原撫松	木春菊		水彩、鉛筆・紙	原優子氏寄贈
原撫松	西洋紳士像		鉛筆・紙	原優子氏寄贈
(原撫松と牧野義雄)				
牧野義雄	夜のリージェントパーク	1928 (昭和 3)	油彩・キャンパス	
牧野義雄	日本大使館から見たロンドン襲撃	1940 (昭和 15)	油彩・キャンパス	
牧野義雄	ハイド・パークのアキレス像		油彩・キャンパス	

### 展示室 3 日本画の表現



菊地養之助《雪野》

“日本画”という語は、西洋から輸入した技法を用いた“洋画”という語の対語として明治時代に生まれました。一般的には洋画誕生後の明治以降、日本の伝統的な技法に則った絵画を指します。岩絵具という顔料を膠と水で混ぜ、絹や紙を支持体とするのが主な特徴です。

近年は素材や題材も多様化しており、同じ岩絵具を画材としていても、屏風や掛軸、また紙やキャンパスに描かれ額装されたものなど、形態によって全く雰囲気が異なります。今回は、明治から昭和期の作品を展示します。様々な表現方法をお楽しみいただければと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
小坂象堂	釈迦と賤婦之図	1895-99 (明治 28-32) 頃	岩絵具・絹/軸	
梶田半古	蝶	1907-12 (明治 40 年代)	岩絵具・絹/二曲一隻屏風	
玉村方久斗	松に鳩	1924 (大正 13)	岩絵具・紙/軸	
玉村方久斗	紅梅・菊	1924 (大正 13)	岩絵具・紙/対幅	
安藤重春	犬声		岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	虫	1990 (平成 2)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	皎	1987 (昭和 62) 頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
黒沢吉蔵	晩秋の山河	1975 (昭和 50)	岩絵具・紙	
黒沢吉蔵	冬	1964 (昭和 39)	岩絵具・紙	黒沢吉蔵氏寄贈
常盤大空	古代頌	1960 (昭和 35)	岩絵具・紙 (2 点組)	常盤房子氏寄贈
菊地養之助	雪野	1976 (昭和 51)	岩絵具・紙	菊地一郎氏寄贈
菊地養之助	家族	1957 (昭和 32)	岩絵具・紙	菊地一郎氏寄贈

## 展示室4 銅版画の魅力



亜欧堂田善  
『新鑄総界全図 付・日本境界略図』

日本の作家による銅版画の魅力をご紹介します。

もともと銅版画の技法は、中世にヨーロッパで発明されました。その後、キリスト教の伝来とともに、日本にも伝わりました。日本では浮世絵など木版画の伝統がありましたが、江戸時代後期から明治時代になってから、国内でも銅版画が本格的に制作されるようになりました。

日本の銅版画の歴史のなかでは、福島県須賀川市出身の亜欧堂田善（1748 - 1822）は重要な作家です。田善は、銅版画のもつ精巧で細かい描写ができる特性を活かし、地図を製作しました。

第二次大戦後になると芸術表現が一挙に豊かになっていきます。長谷川潔（1891 - 1980）は、メゾチントの技法を独学で発展させました。また、駒井哲郎（1920 - 1976）は、エッチング、メゾチント、アクアチントなど多様な技法を駆使して、夢と現実が交差したような独特の世界を創造しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
亜欧堂田善	『新鑄総界全図 付・日本境界略図』	1809（文化6）	エッチング・紙／卷子
亜欧堂田善	『和蘭内景 医範提綱 付内象銅版圖』（扉絵：新井令恭）	1808（文化5）	銅版・紙／本
石田有年	大和国豊山長谷寺眞圖	1880（明治13）	銅版・紙
石田有年	官幣春日大社御神楽之圖	1891（明治24）	銅版・紙
石田有年	『京都名所五十景』のうち 洛西嵐山景	1890（明治23）	銅版・紙
結城正明	ヒポクラテス像	1877（明治10）	銅版・紙／軸 新村淳庵（蔵版・発行）
結城正明	大日本帝国両陛下御尊影	明治10年代頃	銅版・紙
松田緑山	「大日本政府 舊公債証書」金三百圓	1872（明治5）	銅版緑刷・紙
松田緑山	東京佃嶋遠望商船入津川蒸気出帆之圖		銅版・紙
松田緑山	音羽山清水寺之春細図		銅版・紙
岸田劉生	天地創造（3点組） 1 怒れるアダム 2 欲望 3 石を噛む人	1914（大正3）	エッチング・紙
間部時雄	風景	1923（大正12）頃	エッチング・紙
渡辺光徳	すか川なべし橋	1925（大正14）	エッチング・紙
竹腰建造	伊庭貞剛像		エッチング・紙
長谷川潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932（昭和7）	メゾチント・紙
松田義之	樹蔭	1937（昭和12）	エッチング・紙
有島生馬	ハノヴィン祭（ハロウィン）	1936（昭和11）	エッチング・紙
木下孝則	読書	1938（昭和13）	エッチング・紙
安井曾太郎	鏡	1938（昭和13）	エッチング・紙
駒井哲郎	鳥と果実（小）	1959（昭和34）	エッチング、アクアチント・紙
駒井哲郎	花とレモン	1974（昭和49）頃	モノタイプ・紙
斎藤寿一	青の中の風	1968（昭和43）	ディープエッチング、グラインダー・紙
加納光於	燐と花と	1961（昭和36）	エッチング・紙
池田満寿夫	生徒の名はイヴ	1963（昭和38）	ドライポイント、ルーレット・紙
北川民次	メキシコの恋人たち	1970（昭和45）	エッチング・紙
中林忠良	Position'80・腐食III	1980（昭和55）	エッチング、アクアチント・紙

## 展示室4 ガラスの美



佐藤潤四郎  
『オブジェ・羊車』

郡山市出身のガラス工芸家・ガラスデザイナー、佐藤潤四郎。彼の生み出す作品は、どれもどこかあたたかな雰囲気を持っています。ガラスは、そのシャープな輝きや透明感から、冷たいイメージのある素材かもしれませんが、潤四郎の作品が私たちにあたたかな印象を与えるのは、そのかたちが大きく影響しているといえるでしょう。柔らかな曲線、揺らぎには親しみやすさがあり、手になじむかたちには、潤四郎の、そのガラスを使う人への優しい気持ちが表れているかのようです。

そんな温もりあるかたちと様々な装飾が響きあう、美しいガラスの世界をご堪能ください。今回は、潤四郎とともに活躍した吉田丈夫の作品もあわせて展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	窯場の朝 (ルツボの中)		水彩・紙	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄	小林東洋氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	舍利器 (カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット融着	
佐藤潤四郎	舍利器		ガラス/宙吹・プランツ、気泡封入	
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス/型押し	
佐藤潤四郎	水指 (プランツ)	1986 (昭和 61)	ガラス/型吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯 (グリーン)		ガラス/宙吹・プランツ	石川和子氏・長谷川貴子氏寄贈
佐藤潤四郎	花器		ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	花器	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	皿 (グリーン)		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・灯もつけて	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器 (グリーン)		ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹、サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	クリスタル花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・象形文字 (羊)	1984 (昭和 59)	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962 (昭和 37) 頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス/型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	花器		ガラス/宙吹・雲母封入	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤潤四郎	オブジェ・ガラスを吹く人		鍛鉄	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	硯屏・いのしし	1966 (昭和 41) 頃	ガラス/サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト・ペガサス		ガラス/サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	赤いガラスの神様		ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	硝子の女神	1982 (昭和 57)	ガラスレリーフ	田淵十一氏寄贈
吉田丈夫	クリスタル瓶 《瓢》 <small>ひさこ</small>		ガラス/宙吹・金彩	田淵十一氏寄贈
(資料)	「硯屏・いのしし」雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
	「ペーパーウエイト・ペガサス」雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
	「硯屏・ガラスの神様」雄型		耐火煉瓦	木村四郎氏寄贈
	複製「硯屏・ガラスの神様」(木村四郎による複製)		サンドキャスト	木村四郎氏寄贈

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1 階				
細川宗英	装飾古墳シリーズ 9	1963 (昭和 38)	セメント	細川明子氏寄贈
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
● 2 階展示ロビー				
清水多嘉示	フランスの女	1926 (昭和元)	ブロンズ	
柳原義達	女の首	1958 (昭和 33)	ブロンズ	
アリストティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
北村四海	井冰鹿の娘	1917 (大正 6)	大理石	
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 1		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 2		陶器	大方竜子氏寄贈
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	大方竜子氏寄贈
● 前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	